

月報

<447号>

ケルンボン日本語
キリスト教会
二〇一九年二月一八日発行

「神さまが共におられる恵み」

佐々木良子

イエスさまのご降誕のお喜びをもつしあげます。今年も皆さまと一緒にクリスマスのお恵みに与れることを感謝すると同時に、一方では世界中で日常茶飯事のように繰り返されている悲惨な出来事に心痛めています。

つい最近ではアフガニスタンで、クリスチャン医師の中村哲兄弟の尊い命が奪われたことなど、争い、戦い、テロ、自然災害によって多くの人が犠牲になり悲しみに包まれました。

人の善意や平和への思いは、厳しい現実を前にして無力を感じます。しかし、だからこそ暗闇に閉ざされている私たちに、クリスマスへの光がより一層輝いている有難さを感じるような気がします。イエス・キリストの豊かな慰めと喜びとが、皆さまと共にありますように祈りいたします。

昨年よりクリスマス礼拝は、ページェント礼拝という形式をとるようになり、教会の方々も楽しみにしています。子どもの礼拝に通っているお友だちや、そのご家族を中心として、教会の方全員が其々の役を担ってくださっています。二年連続マリヤ役のKさんは、お父さまの転勤で日本へ完全帰国されるため、今年が最後となりました。

Kさんにとって、単にマリヤ役として終わるのではなく、天使が語られた「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」(ルカによる福音書一章二八節)のお言葉が、自分に語られている神のお言葉として心に留まり、これからの人生の糧となることを願っています。

さて、先程のみ言葉は有名な受胎告知の場面、マリヤに語られている祝福のメッセージです。しかし、マリヤが未婚で赤ちゃんを宿すということは、当時のユダヤの社会では、世の厳しい目にさらされ、苛酷な状況に陥ることを暗示しています。にも拘わらず、「恵まれた方」と、語られています。ここで示されている「恵み」とは、いったい何でしょうか？「これからマリヤに起こる一連の出来事が全て上手く運び、彼女の人生がバラ色になるということではありません。」

マリヤに与えられた恵みとは、「主がともにおられる。神がともにおられる。」ことです。言い換えるならば、「あなたのことをいつも覚えていいる。思っている。」ということなのです。

人を創造された神ですから、一人一人の存在をかがえのないものとして覚えていてくださっています。私たちが神を忘れようとも、切っても切れない強靱な絆で、神と私たちは結び合われています。ですから、いつでもどのような時も、私たちのことを見放すことなく守り導いてくださるのです。

その恵みを恵みとして、マリヤは受けとり、「身の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者というでしょう。力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。」(ルカによる福音書一章四八〜四九節)と、告白しています。

彼女はこれから自分の身に起きることを、納得して受け入れたのではありません。唯、神と共におられる、という約束を信じたのです。信仰の始まりは、主なる神からの一方的な語りかけ、一方的に与えられる恵みに応答することです。

誰も自信をもって信仰生活を歩んでいる訳ではありません。私たちの信仰はおぼつかなく危ういものであることを、自分自身がよく知っています。

す。自分の力や努力で、何とかなるものでもありません。

まだ年若い村娘のマリヤも自分に自信があったわけではなく、唯、「主のはしため」だから、弱々しいこの私に目を留めてくださる神が共にいてくださるから、イエスさまの母となることを受け入れることができたのです。

自分ではどうすることもできないことでも、神が共にいてくださる恵みにより、平安と希望のうちに自分の人生を託すことができます。マリヤの姿を通して、信仰生活を支える土台がそこにある、ということが分かります。

主なる神が私と共におられることを心から信じる時、心の思い乱れ、悩み、憂いがあったとしても、そこを超えて、神が与えてくださる平安と慰めの中で、勇気と希望を持って生きてゆくことができます。これが信仰の神髄ともいえるのではないのでしょうか。

私たちは、今、二〇二〇年という新しい世界に踏み出そうとしています。その歩みも様々な場面で、戸惑い立ち尽くすことがあることでしょう。また不条理に遭遇することもあるでしょう。しかし、「主なる神が共にいてくださる」という約束がある限り、試練や困難な道であるようにみえても、そこは憐れみと恵みの世界です。

苦難に満ちた状況であったとしても、神さまの愛は絶対に私たちから離れません。私たちと共におられ恵みを与えてくださる神さまに、希望を見出して歩んで参りたいです。





《クリスマスに寄せて》

佐々木 良子

ケルン・ボン教会に遣わされて四度目のクリスマスを迎えました。今年は今までは違う特別な思いで過ごしています。現在は全く癒されていますが、昨年のアドヴェントに入る直前に脳腫瘍の診断が下されました。しかしその事を通して、主なる神さまのご計画と御言葉の揺るぎない力、そしてインマヌエルと呼ばれる主が必ずいてくださることを確信する出来事となりました。信仰者はバプテスマを受けて新しく生まれ変わりますが、私は更に信仰を新たにされました。

恐らくこれからもクリスマス時期になると、いついかなる状況の中でも主のお恵みが必ずあることを思い巡らしながら、感謝して過ごすことになることでしょう。皆様の上にも主のお恵みが豊かにあることを、いつも覚えることができますようにお祈りいたします。

小川オスナー 良子

クリスマスおめでとうございます。今年自分でも思い出せないほど忙しい年でしたが、健康が守られ神様に感謝しつつアドヴェントの時を迎えました。頭の中はまだ整理されていませんが、今年実習先で経験したことを土台にこれからどういう風に老人介護士として働いて成長していきたいのか、考えている最中です。

忙しい中でも、今年はヨハン(一歳)の大切な予定がある時に私の仕事が重ならず、神様が私のスケジュール調整を助けて下さっているかのようでした。

ヨハンは今秋学校内の「持続可能な社会のためのコンテスト」にクラスで応募し、近隣のトイトブルクの森の植樹のための募金活動に熱心に取り組んでいました。その結果彼のクラスが校内で一位に選ばれ、彼もとても喜んでいました。環境問題はドイツの一〇代にとって関心が高いテーマで、学校としても生徒の自発性と社会に関わっていくことを促しているように見えます。こつやって社会の中で子供は育てられていくのだと感じました。

金正浩

四月に新しい計画のために、韓国からドイツ・ドルトムントにやってきましたが、なぜ計画が崩れたのか、なぜ日本ではなくドイツに来たのか。初めの六カ月は神様の計画が分かりませんでした。出国前に「GMAへ日本福音宣教会」という私が属していた団体の代表牧師がドイツに行つて、ドイツの日本教会に仕えるようになるのだと、いきなり説教途中に宣言されました。私はそのようなつもりはなかったのですが、しかし私は今ここにいます。相変わらず神様の全ての計画は分かりません。

しかし、私は今、ケルン・ボン日本語キリスト教会の皆様と一緒にいます。現在は以前より日本語も上手ではなく、ドイツ語まで学ばなければならぬのですが、二〇一九年にドイツに私がいることは神様の計画だったと告白できると思います。好きな日本のゴスペルの中にイエスが愛したという曲があります。「イエスが愛したように私たちも愛し合うその愛の中で枝となるとき多くの実を結ぶ」この曲の歌詞を黙想しながら二〇二〇年を迎えたいと思います。

金 聖恩

今年のクリスマスは私達にとって思いもしなかったクリスマスになりそうです。韓国を離れて迎える初めてのクリスマスで日本語教会の皆様と一緒に迎えることは去年の私なら想像も出来なかつたことです。ドイツに来て初めの頃は大変な事も沢山ありました。ここで上手くやっていけるか等の不安や悩みで苦しかった時、ケルン・ボン教会に来ることができ本当に癒され私たちが持った使命も少しずつ思い起こされています。

私たちに与えられた使命。それは日本人の魂のため仕えることです。神様であられるイエス様はただこの世で幸せにいけることのためだけにこの世に人間として生まれた訳ではありません。永遠の命と永遠の御国を与える為にこの世に生まれて十字架を背負い復活の力でまた必ず迎えに来ると約束を果たすため赤ちゃんとして生まれたのです。その事を思う度心の底からわいてくる喜びと感激を今年は日本語礼拝の兄弟姉妹たちと共に分かち合える事ができ大変嬉しいです。この喜びを持って：メリークリスマス！！

佐藤グルーベ道子

この年八月には、一番恐れていた母との別れが訪れました。しかしそれでさえ、すべて神様の深い愛の御手の内にあったことを心から感謝せずにはおられません。

この教会も多くの方々の祈りと献金に支えられ、今日まで礼拝・牧会を持ち続けることができております。遣わされた佐々木先生と共に新しい年を迎えることが出来、大変嬉しく思います。皆様の上に神様の恵みと平安とが限りなく与えられますように祈りつつ・・・

シユミット 亜弥子

クリスマスおめでとうございます。昨年一二月二四日には長女のところに私の初めての孫が誕生しました。今年に入って九月にも次男のところに女の子が生まれました。今は四〇年前の育児とはちがった育て方なので、私は赤ちゃんを抱っこするだけです。子供の成長は早いもので、会う度に変化があるのをゆっくりと観察出来るのはおばあさんになってからで、その度にのびのび育ってほしいと思います。

今年は特に洪水、山火事、大きい台風などの災害がひどくなつた様に思います。環境問題でデモが、特に若い人達が中心になって行われています。地球を守るため、又、次の世代のために私達は真剣に考えなければなりません。争いのない世界の平安を、そして一人一人の心の平安を神に祈ります。

ドレーアー 京子

ケルン・ボン教会の皆様、そして教会でめぐり会えた沢山の友達、皆様お元気にお過ごしでしょうか。私たちが北ドイツに引っ越して一年が過ぎました。ガレージに積まれていた荷物も大部分片付けられ、車を入れるスペースができた程です。近所の方たちとも親しくなり、特にお隣のご主人が私の主人と同じ南ドイツ出身で、あの聞き慣れたシユベールピッシュをこの土地で耳にするという楽しい経験をしています。隣町のKJG(成人学校)のプログラムをめぐって偶然見つけたギターコースに、「シニアのギターアンサンブル」というコースがありました。以前ギターを習ったことのある人は誰でも入られるという事で、さっそく見学に行

きました。簡単に弾ける曲を三重奏または四重奏で弾いているようで、なんとかついていけそうな気がして申し込みの手続きをしました。女性四人、男性六人、そして指揮を担当する若い先生、合計一人のグループです。午前中二時間の練習の後、コーヒを飲みながらおしゃべりをして帰るといいうパターンですが、音楽以外にも町に関する様々な情報を得ることができるので、楽しみにしているひと時です。

町の名前を聞いてもどこにあるのかまだ分かりませんし、どこに行くにもナビがなければ迷ってしまいそうです。でも来年は、様々な人との出会いの場を広げて行けたらと願っています。皆様にとって恵み多いクリスマスとなる事を心からお祈りいたします。

ワルター・ドレーアー

今日は十一月最後の日、そして二〇一八/一九年の教会暦の最後の日です。第一アドヴェントの前日、今年は一二月一日が第一アドヴェントです。それでアドヴェントクラウンツの飾り付けをしなければなりません。我が家では私の両親がやっていたように、クラウンツを赤い紐で結び天井から吊るします。私たちは一年以上ここに住んでいるというのに、引越し荷物の片付けが全部終わっていません。それで、アドヴェントクラウンツの飾りの入った箱を見つけたことができません。家中を探してやっと見つけた時、なんと安心したことが。そのあと、あの瞬間がやってきました。箱を開ける時に何か心がよぎる瞬間、例えばイースターの準備で絵の描かれた卵を春の枝に吊るす時、三月三日お内裏さまとお雛さまを箱から出して台の上に飾る時、一年間眠っていた小物を様々な箱から慎重に取り出し再び手に取る時、沢山の思い出がよみがえります。

私の叔父で父の一番下の弟ヘルムート(一九二二年生まれ)が、一九三一年に私達家族のために作ってくれた、板を星型に切って金色に塗った小さな星があります。ヘルムートは一九四四年ロシアのカウカズで戦死しました。でもヘルムートの星は残っていて、遠くから光を放ち、それが近くに感じられます。またもうひとつの、銀紙で作られた小さな星と、簡単な彗の星が一九四七年我が家にあります。メルヘンの人物を形どった二つの小さな飾りも、一九四〇年代終わりの幼少期を思い出させてくれます。

す。これらの飾りは、両親の家のクリスマスツリーに毎年飾られていました。妻と私はもう長い間クリスマスツリーを準備していませんので、この小さな宝物をアドヴェントクラウンツに吊るす事にしました。これを見ると、私の心は暖かさで感謝の気持ち一杯になります。そして、私のこれまでの人生がどれだけ守られてきたか、今も守られているか、を教えられます。

しかし人生には別れは付き物です。私たちはケルン・ボン日本語教会の兄弟姉妹に別れを告げなければなりません。でも心の中ではいつも近くにいます。アドヴェントの最初の蝋燭の火が灯される時、その光は沢山のひとと私たちを結び付けます。ヘルムート叔父さん、両親、子供達とその家族、数年にわたりボン・ハッファー教会でアドヴェントの季節やクリスマスと一緒に過ごした人たち。夕方になると、私達の庭にある小さな灯籠の蝋燭が光を放ちます。それははやもすると見えないうちにならなくなります。でも確かに光っていて、夜が夜ではなくなりました。次の言葉が胸に浮かびました。「わたしは世の光である。」(ヨハネによる福音書八:12) 世界はもう暗闇ではありません。恵み多いクリスマス。

永山 辰原

今年もイエス様が誕生された喜びを皆さんと共に分かち合えることを感謝します。今年も振り返れば、別れもあり、新しい出会いもありました。教会は生きているということを改めて認識した一年でした。また、それぞれの生活、人生の歩みの中で、様々な困難もあったかと思えますし、今現在も悲しみや嘆きの中で過ごされている方もおられるでしょう。しかし、闇の中に光が到来した、まさにそれがクリスマスであり、その喜びの到来を、どのような状況にあっても喜びたいと思えます。その喜びとは、「神が我々と共におられる」ことです。クリスマスおめでとうございます。

張谷 延河・麻帆・有振・有莉

主の恵みと平安が皆様に満ちていることをお祈りします。時間はとても速く、三月に日本に戻って来て既に八ヶ月以上経ったのが全く実感できてお

りません。ドイツでの時間の過ごし方がこちらとは違うということもありますが、仕事の面でも変化が大きく、公私共に多忙な時間を送っていました。幸い教会は隣の町、千葉県流山市に位置する集いに出会い、出席することになりました。先日一月三〇日には、長女の有莉(ゆり)も生まれ、どうやって教会に交代で行けるかを考えているところです。皆様のお祈りが大きく働いて、母子共に健康でいられ、この様な祝福を与えてくださる神様に、更に感謝し主の栄光を帰したいと思えます。忙しい私の替わりに不眠の毎日を送っている麻帆に申し訳ないと思いつながら、仕事面では、来年の一月一日から日本法人の社長に就任することになり、暫くはドイツへの駐在は難しくそうです。ただ、ドイツの会社であることは変わりないので、年に一回はケルンに帰り、皆さんに会えることを楽しみにしております。主の支えと導きが皆様と共にあります様に祈りいたします。

藤井 隼人

Frohe Weihnachten! ドイツに来てから四九回目のクリスマス。このところ、老後に関する日本人対象の講演会等が開催され、啓発されることも多い。例えば老後のための住宅探しには最低五年位はかかるのか。五年後といえは八〇歳。そろそろ『終』活を本気で始めるべき時期のようだ。手始めに、「築三五年の我が家に将来住みたい者は?」の問いに、子供三人全員「ノー」。賃貸住宅の方が断然便利で手軽、自由が効く、という訳だ。更に、一〇日ほど前、斜め向かいの寡夫Bさんが突然天に召された。年齢は私より一歳下の七四歳。その日、昼を過ぎても雨戸が開かないのを不審に思った、隣に住むBさんの叔母からの連絡でBさんの息子が合鍵で家に入ると、寝室ベッドで亡くなっていたという。常々Bさんは息子や孫から、「玄関のドアを施錠した後、内側の鍵穴から鍵を抜いておいてね。何かあった時に外から合鍵でドアを開けられないから。」と言われていたので、鍵職人を呼んで玄関をこじ開ける必要はなかったとのこと。

我が家では子供達が話し合い、息子の幼友達である公証人に話を聞いてみようという計画、娘宅に親子五人が集合し公証人の説明を受けた。先ず第一

の事は、夫婦間で、先に死亡した者が生き残った方の配偶者を『単独相続人』に指名する旨の『相続契約』を相互に結ぶこと。我々夫婦のどちらかが生きている限り、子供達への相続は全く発生しない、つまり特別な手続きは必要ない！のである。近日中に公証人役場に出頭し『相続契約』を公正証書として作る事になっている。『備えあれば憂いなし』、『老いては子に従え』を思い返す昨今である。私の命は御手の中にあり、生かされている限り御旨を尋ねつつ誠実に生を全うしたいと思う。

藤井 弘子

Fröhe Weihnachten! 深い感謝をもってアドベントを過ごしている。教会では牧師のチャレンジ魂に励まされつつ、日曜日が楽しみ的一年間であった。第三九回教会バザーは私に強いインパクトを残した。人手が少なく弱気になりそうだったが、大勢のバザー応援隊(恒例のレギュラーメンバー)が「手伝いに行きまーす」と言ってくれて勇気が出た。食券(Bon)を1Bon 当たり五〇セントから一ユーロに値上げして二年目、純益が四〇〇〇ユーロ近かったことに一同感激。

私のクリスマスの祈り

一、日本の水害被害者の方々、BC内で受け入れ未定の難民の方々が無事越冬されますように。
二、地震国日本の原発が一刻も早く廃炉になりますように。諦めないで脱原発活動続けます。
三、武力によらない国際紛争解決の道をコツコツと身を以て示してこられた中村哲医師の遺志を継ぐ人々を、主よ、どうぞお護り下さい。皆様と世界中の方々の上に平和の君、イエスキリストの祝福が豊かでありますように。

藤井 千恵

今年はいつもの以上忘れっぽいようで、アドベントKranzもKalendarも二月二日になってから慌てて用意した。その上、友達、恩師、お隣さんの五〇・七〇・八〇歳の誕生日も忘れたり、散々。そんな中で、故郷に帰っていった生徒ちゃんからの『元気で、ピアノも喜んで続けているけど、千恵先生も連れて帰りたいかった』というメッセージに感動。アーントは相変わらずケルンに電車通勤しており、朝が早いかわりに帰宅も早い。私のレッスンは

午後から夜にかけてなので、通常はあまり顔を合わせることがないのでちょっと残念。でも、お互い健康であること、職があること、周りに心が許せる友や家族がいること、音楽が楽しめることが幸せ。

賢治(一七)は〇二という最高学年(二年生)で、来春は卒業試験(Abitur)の予定だが、果たしてどれだけ勉強をしているかは(親には)分からない。パーティー、デート、ライブやコンサート(ドラム)、スポーツと、忙しい。本人は、卒業後はまず日本でのワーホリを目指している。

奈々(来月一五)は、一年間アメリカ合衆国がカナダに交換留学したため、いつもは親任せの傾向にもかかわらず、自発的にいくつかのエンジニアに応募している。英会話の実力アップが主な目的だが、早く家を出て色々な経験をしてみたいのも大きいようだ。こちらで比較的多くの自由を楽しんでいるが、アメリカやカナダの高校生は規制が厳しいそうなので、カルチャーショックでとんぼ返りにならないかな、と少しだけ心配。

五月には両親・妹弟たちと二〇年ぶりに一緒に旅行する予定。親の幼少・青春時代の地を巡り、話を聞くのが楽しみ。世界中の皆さんにメリークリスマス!

外間 久美子

メリークリスマス! 昨年一二月から始まった年金生活...といっても週三日プライベートレッスンしながらですが、謳歌しています。「Retiree hat keine Zeit(年金生活者は暇が全くない)」と皮肉っぽくよく言われていますが、まさにその通り、お声がかかるままに、気が向くままに飛び回って忙しくしています。今年のクリスマス・お正月も沖縄の母のもとで一ヶ月ほど過ごすことになりました。これも定年退職したからこそできることですが、生徒たちが皆理解してくれたお陰でもあり感謝です。六〇歳過ぎると公共交通機関もぐっと安くなり、小旅行も楽しめるようになりました。老後のことを病気になるほど心配していたのは何の為だったのだろうかと笑えてくるほどです。

沢山の苦しみ・苦い経験があったからこそ、些細なことでも喜び感謝できるようになったのかもかもしれません。幸せな一年でした。皆様にとっても健康で幸せな一年でありますようにお祈りいたします。

ヘルガ・マイヤー

今日は一五年前に始まった話について書きます。家族は一九一〇年代から、四世代がルール地方に住んでいました。しかし、二〇〇〇年以降は祖父母が亡くなって子どもは独立してから大きな変化がありました。

息子のオリバーが日本に引っ越して、朗子(あきこ)と結婚しました。結婚届は名古屋南区役所で提出しました。そのため夫と私は日本に行きました。しかし結婚式は日本の結婚式場ではなくて、ドイツの地元のプロテスタント教会でやりました。結婚式の礼拝に参加する日本人も内容を理解できるように、説教は日本語訳や讃美歌の日本語版が必要でした。ようやく小栗牧師の住所が分かって、連絡が取れました。小栗牧師のおかげで素晴らしい結婚式でした。

数年後、ルール地方からケルンに引っ越ししました。ユンケルスドルフに住んでいる娘の近くの家を買いました。偶然にも小栗牧師もユンケルスドルフに住んでおられたのでした! 息子が日本に住み、そして私は日本文化と日本語に興味があったので、ケルン日本語教会の礼拝に行ってみました。大変親切に受け入れられ、今でも定期的に礼拝やその他の活動に参加しています。

八月に小栗牧師と再会でき、夫も私も大変うれしかったです。実はかなり感動的でした。この出逢いに感謝し、それこそ奇跡であり、神様のお導きだと信じます。

吉丸おと・和慧

神様に守られて娘の和慧と一緒に元気でクリスマスを迎えることができ感謝しています。今年新しい仕事も与えられて嬉しく思っています。大変なこと、失敗も沢山ありますが、その度に廻りの方々から助けられています。

転職したお陰で日曜日には毎週教会に行くことができ本当に嬉しいです。和慧も学校やアルバイトに忙しくしていますが、一緒に教会に行ったり佐々木先生から説教をお聞きした後、皆さんと共に茶しながら、色々な話しをして楽しい教会生活を送ることができています。今年もこのように先生、教会の神の家族と一緒にクリスマスを元気で迎えることができ感謝で一杯です。

《お礼のご挨拶》



岡本典子、圭史、清良
 一二月末、五年半のケルンでの赴任生活を終え、いよいよ日本に本帰国します。佐々木先生、教会員の皆様、教会行事で一緒に過ごさせていただいたお友達の方々に、私たち家族に沢山の御力添えを頂き、本当に有難うございました。

来て数か月の時、秋のバザーでした。以来、私は、物品販売やケーキの販売をお手伝いさせていただきましたが、毎年のバザーを楽しませていらつしやる地元の方々の触れ合いや、お友達のおいしい手作りの日本食を頂いたり、美味しい手作りの日本食を頂いたり、私たちが家族にとっても、楽しみに待つ年間行事の一つとなりました。

三年前に佐々木先生がいらつしやっていたから、娘は、一生モノの経験を沢山積ませていただきました。月に一度の子供礼拝で、季節毎の聖書のお話を聞く事で、ドイツの宗教行事をより深く理解できました。また、旅行先のヨーロッパの国々でも、絵画や彫刻の芸術の中に、聖書の場面を見つけ、たのしむ事ができました。クリスマス会では、キリスト降誕の劇にマリヤ様役で参加しましたし、何と云っても、プロの演奏家の皆さんと一緒に、初心者ながらピアノを弾かせていただくと言った、日本にいたら考えられない幸運な機会を与えていただいた事、娘の人生において正に宝物の経験です。

私自身も、子育て学びの会と読書会と、月に一回、佐々木先生のお宅にお邪魔し、大変有意義な時間を過ごしました。楽しいお茶会の雰囲気でありながら、子育てや人生についてしっかりと考え、お友達の経験を聞いたり、自分の経験を話したりしながら、

ら、普段なんとなくしている事を見つめなおし、時に反省し、時に背中を押してもらい、子育ての指針を得る事が出来ました。これから先の娘の反抗期には、この学びがきっと役に立つと信じています。

感謝する事は尽きませんが、他にも、教会に来ると美味しい料理でもてなしていただいたり、お会いする度に温かい声をかけていただいたり、娘のピアノの発表会に応援に来ていただいたり、いつでも家族の一員の様に迎え入れていただきました。おかげさまで、私たち家族のケルン生活はとても実りある経験となりました。この場をおかりして、家族一同、心よりお礼申し上げます。最後になりましたが、佐々木先生、教会員の皆様、お友達の皆さんの、益々のご活躍を祈念いたしております。

《二か月の教会生活》

森忠道子



ケルン、ボン日本語キリスト教会の皆様、この度、ドイツへ来て、もうすぐ二か月半になるうと思っています。二ヶ月半もいられるかしらと思っていました。過ぎてみると、本当にアツと言う間でした。

娘がクリスティーナさんから佐々木先生を紹介して頂いた事から、私まで先生とお付き合いさせて頂き、教会にも連れて来て頂きました。そこで、優しい皆様にお会い出来て、素晴らしい体験を沢山させて頂きました。五年前に同じように、娘の産後の手伝いに来た時とは、今回は比べものにならないくらい、楽しい思い出が沢山出来ました。生まれて初めての教会、そして礼拝までさせて頂き、その後の皆様との食事とおしゃべりは、とても楽しく、美味しく、そしてとても勉強になりました。教会だけでなく、シュミット亜弥子さんのお宅での家庭集會、先生のお宅での聖書を読む会、子育ての会ではいろいろなる事を勉強させて頂きました。初めてのバザーのお手伝いは、楽しく新鮮でした。

日本人の方だけでなくドイツ、韓国、そしてモンゴルの方まで優しく接して下さい、とても嬉しかったです。

◇ 報 告 ◇

たです。日本に帰っても、佐々木先生初め、皆様の事は忘れません。日本にお越しの節は、是非、我が家にも遊びにいらして下さい!!そしてこれからは、聖書を読み、教会にも行ってみたいと思っています。又、お目にかかるのを楽しみにしています。本当にありがとうございます。

九月一日、子どものお礼などにおいてに於いては、村上春香さんは、第二子、なつちゃんを出産されました。主のお守りのうちに健やかに成長されますようにお祈りいたします。

九月三〇日、ボンヘッファー教会との合同礼拝をお献げした後、聖書の食事に出席しドイツの教会の方々とよきお交わりをいたしました。私たちの教会は「慈しみ深き」の賛美を献げました。

九月三〇日、外国語教会協議会主催による夕礼拝にて、賛美奉仕と軽食の準備をしました。日本からのお客様も賛美に参加することができました。

十一月一日(祝)に第三九回教会バザーが開催されました。今年もバザーの準備・開催にあたりたくさんの方々の協力をいただきました。心から感謝いたします。3.941.49ユーロ(純益)を、『Brofür die Welt』の活動に献金いたしました。ご協力ありがとうございました。

十一月一日、子どものお礼などにおいて、幼児祝福式を執り行いました。神さまからの祝福を頂き健やかに成長できますようにお祈りいたします。

十一月八日、南ドイツにおいて欧州教職者研修会に佐々木牧師が参加しました。帰り道、シュトゥットガルトの家庭集會にてご奉仕もいたしました。

十一月三〇日に張谷廷河兄・麻帆姉ご夫妻に第二子、女兒、有莉(ゆうり)ちゃんが誕生されました。主のお守りの内に健やかに成長されますようにお祈りも致します。



一二月八日、礼拝の中で金正浩兄・聖恩姉の転入会式が執り行われました。新しい神の家族を嬉しく思います。

一二月九日、子どもの礼拝、ママの子育ての学び会、読書会に参加されている方々と共に、牧師宅でクリスマス会を行いました。新しいメンバーも加わりました。

一二月九日、外国語教会協議会に佐々木牧師と役員の一シユミット亜弥子姉が出席しました。

◆

クリスマスページェント礼拝&祝会
一二月一五日

◆

昨年引き続き、子どもの教会に集っておられるご家族と教会員と共に、イエスさまのご降誕劇を行うことができました。又、子どもの賛美として、心温まるリコーダー、ピアノの演奏、特別賛美として、音楽家ご夫妻によるヴィオラとピアノの演奏も昨年同様に感謝いたします。教会員のご家族もおおいでござい、多くの方々とクリスマスをお祝いできました。二年続けてマリア役を担ってくださった岡本清良さんは、今月末、日本に完全帰国されます。日本の生活に早く慣れますようにお祈りいたします。

祝会にはボン・ハッファー教会のゲッパート先生も参加されメッセージもいただき、一緒にプレゼント交換もして、楽しい時を持つことができました。



皆さんと楽しくお祝いしました。
来年は配役も変わります。
どうぞお楽しみに！！



今年も心に響く演奏を
身近でお聞きすることが
できました。

◆ 予告 ◆

◆二〇二〇年 日独語新年礼拝&祝会

日時 一月五日(日) 礼拝一四時

※ドイツ語訳あり、礼拝後祝会

◆来年からの新しい集会のご案内◆

・ 映画会 一月、四月、一〇月

・ ハングル講座 原則第二日曜日 礼拝後

一五時三〇分〜一六時三〇分

◆一月一九日 映画会一五時三〇分〜一六時三〇分
「武器ではなく、命の水を」 中村哲医師を偲んで

◆一月二六日 教会定期総会

◆二月二七日〜四月三日

佐々木牧師、宣教報告のために日本に一時帰国

◆ 編集後記 ◆

今年も私たちの教会を覚えてくださり、励ましのカードや尊い献金をありがとうございます。皆様の上にクリスマスの主のお恵みが豊かにありますように教会員一同心からお祈りいたします。そして、どうぞ良いお年をお迎えください。

ケルンに存在している外国語教会の会議が年に四回開催され、昨日も役員の方と出席してきました。そこではそれぞれの課題を共有しますが、私たちの教会は、毎週日曜日毎に、何の心配もなく自由にドイツの教会を使用させて頂き、多くの配慮をしてくださっていることに改めて感謝いたしました。示してくださっているご厚意に対して、ケルン・ボン教会が成長してゆくことがドイツ教会の喜びになると思っています。新しい年、一歩でも前進して行きたいです。 佐々木良子

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

〈主日共同礼拝〉

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

〈牧師〉 佐々木良子 (Pfr' Ryoko SASAKI)

牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp

〈ホームページ〉

http://koelnbonn.jp

〈振込口座〉

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF